

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	多機能型事業所 重症児デイサービス実さき		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 25日		～ 令和8年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師、保育士、理学療法士が常勤で関わり、医療的ケアを含む専門性の高い支援を提供できることが大きな強みです。また、月2回の音楽療法や週1回のアロマセラピーなど、外部講師を招いた多彩なプログラムを通じて、子どもたちの意欲や楽しみを引き出しています。	医療ケアが必要な子どもには、担当看護師が中心となり、日々の様子を申し送りや記録を密に行うことで、専門職同士が連携しながら個別最適な支援を実現しています。必要に応じて専門知識のある職員の意見を聞き、子どもたちが安楽に過ごせる対応を可能にし、楽しく成長を促すことができるよう日々の支援に取り組んでいます。	引き続き職員の配置数を維持し、研修やケース検討を重ね、職員の知識と技術の向上を目指していきます。
2	ミスト浴を導入することで、医療的ケアが必要な子どもでも身体的負担を軽減しながら、安全に入浴支援を提供できる体制が整っています。入浴が「ケア」だけでなく、安心感やリラクセスにつながる時間となっています。	入浴時の注意点、処置内容等を一覧化し、職員間で共通認識を持って支援にあたっています。入浴前後の状態を丁寧に観察し、小さな変化も見逃さない支援を心がけています。	入浴支援を「安全に行う」だけでなく、「心地よさを感じられる時間」として、質を高めるために職員間の共有を継続していきます。保護者の要望や家庭での入浴状況も踏まえ、より個別性の高い入浴支援を目指していきます。
3	保護者との信頼関係を大切に、日常の小さな不安や悩みにも相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。各家庭の状況や思いに寄り添った支援調整ができる点が強みです。	体調や支援中の様子は、送迎時の口頭説明や連絡帳、電話・ライン等を活用して丁寧に共有しています。支援中の児童に体調変化等がある時は、すぐに電話とラインを使って報告、相談を行い状況共有しています。相談があった際には迅速に対応し、必要に応じて職員間で共有しながら支援に反映しています。	ご家族の不安や負担が和らぐよう、気持ちを聞き取り寄り添った支援ができるように努めていきます。面談の機会の確保や情報提供を通じて、保護者と事業所が同じ方向性で子どもを支えられる関係づくりを目指していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流、地域の中で事業所以外の子どもの活動の機会が限られています。	医療的ケア児が多く、感染症や体調管理への配慮が必要なため、交流の機会を慎重に判断していることが要因です。	大規模な交流にこだわらず、散歩や季節行事などを通して地域住民と自然に関わる機会を引き続き設けていきます。地域行事への理解を深めながら、無理のない形で地域とのつながりを広げていきます。
2	利用者人数やニーズによって支援スペースが狭いと感じる場面があります。	その日利用する子どもの行動範囲やベビーカー、バギーの台数、活動内容によって、動線が重なることがあります。	物の配置を見直し、安全に過ごせる空間づくりを日々工夫しています。散歩などの屋外活動も取り入れながら、児童が落ち着いて過ごせる時間を確保していきます。
3	保護者同士が交流できる機会が十分ではありません。	これまで家族参加型の行事は、年に2回行ってきましたが、定期的な交流の場としては形が整っていませんでした。	保護者の意見を伺いながら、保護者会等の開催を増やしていきたいと考えています。安心して気持ちを話せる場づくりを目指していきます。